



日立システムズは、タニタヘルスリンク（THL、東京都文京区）提供の健康管理支援システムを導入し、専用スペースで社員の健康状態の可視化と健康増進を進めている。テレワーク実施率が最大7割となる日立システムズにとって、この専用スペースがコミュニケーションの場の一つとなる。本社に勤める約4500人を対象に実施しており、10月に全社導入する。専用クラウドと連携する通信機能付きの体

## 日立システムズ



健康ステーションでは提携するタニタヘルスリンクの健康管理支援システムを導入している

# 心も“通う”計測スペース常設

組成計や血圧計などの置。社員は目的意識にく役員名が話の種にな計測器をそろえた専用よって使い分ける。ついている。こうしたきスペース「健康ステーション」を本社に2カ所設置した。ここでの計測データや個別配布した活動量計の歩数データをクラウドに蓄積し、健康管理サイト「からだカルテ」で月次リポートなどとして閲覧できる。

同社の健康ステーションには靴をはいたまま簡易に計測できるタニタの体組成計も設置されている。年齢が高くなるほどニッケネームではなく、実名登録する傾向がある。高桑恒夫「本年度をベースに夫しながら22年度に当社グループ全体で導入したい」と展望する。同社は企業などに向けて健康経営サポートサービスを展開。THLとは資本提携しており、自社の課題をシステム改良につなげている。小島久美子未病・福祉事業推進プロジェクト主任技師は「THLとの役割分担を明確にしながらシステムの品質を維持していきたい」と意気込む。

社をあげて社員の健康管理を支援しようと導入した。当面の目標として1日当たり5000歩以上歩くことや、体重の維持・削減などを据えた。高桑恒夫「本年度をベースに夫しながら22年度に当社グループ全体で導入したい」と展望する。同社は企業などに向けて健康経営サポートサービスを展開。THLとは資本提携しており、自社の課題をシステム改良につなげている。小島久美子未病・福祉事業推進プロジェクト主任技師は「THLとの役割分担を明確にしながらシステムの品質を維持していきたい」と意気込む。

（渋谷拓海）